

## 設定した解決したい課題

耐食性試験後の評価を目視により判定しているため、担当者によるばらつきが課題となる。また、経験の多いベテラン職員と経験値の少ない若手職員では評価結果に大きな差異が発生する。担当者による評価ばらつきの是正、技能伝承をICTの力で解決したい。

## 解決の方向性（採択企業との協議結果）

同一形状の光沢のあるめっきサンプルを対象として耐食性試験を実施し、目視評価とAI等のデジタル技術による評価を比較する。デジタル技術による評価モデルの精度を目視評価と比較し、デジタル技術による評価モデルの最適化を検討する。

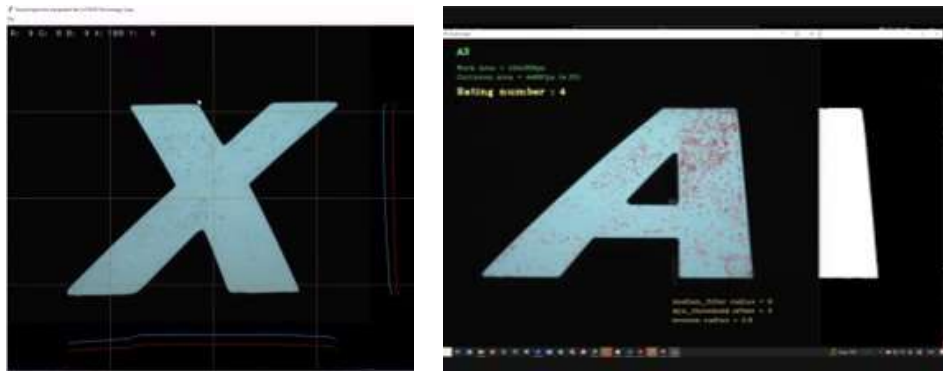


## これまでの活動成果（現状報告）

- ✓ 検出対象となるサビの定義を行い、システム開発スコープを協議した。現状の試験基準に準拠し目視で確認が可能なサビをシステムで検知する。
- ✓ 採択事業者にて画像処理プログラムのプロトタイプを制作する。サビ検出レベル等の調整を今後も進める。

## 現状と今後の方針

- ✓ 画像処理プログラムを改良する（検知レベル、サビのレイティングナンバ（腐食面積率）による評価）。
- ✓ 追加サンプルでの画像処理プログラムを検証する。



## 実証実験の計画

方法：採択企業及び担当課にて開発したシステムを使用し、有効性を評価する。

期間：2023年11月～12月

評価：システムでの評価と担当課評価の一致度合い  
システムによるサビの定量化・正確性  
業務効率化、技能伝承への貢献度